

## 2026/2/15「初志貫徹」使徒2:43-47

交読文・詩42:9-12 さ461 せ340 (327)

今週の水曜日からは受難節(レント)に入ります。使徒言行録を扱うのは、今朝が最後です。教会の創立記念月間に、この教会の始まりの箇所が開かれたことに主のご計画を感じます。

大胆にみことばを語れるように

教会は、単に神のご加護を祈るのではなく、大胆になれるようにと祈りました。一切の災いから守られるようにという願いは、人類共通です。しかし、それだけに留まらず、さらに一歩踏み出せるようにという願いは、ひとりきりではきつとうまれません。「わたしたち」という、一つにされた群れが、分かち合う中で、はじめて湧いてくる熱い思いです。

赤信号みんなで渡れば怖くない、という勢いは、モラルに反する悪ふざけにすぎません。しかし、十字架で死んでくださったイエス様を、主の民が大胆に、迫害をも恐れず証しできるように！という信仰は、教会の誕生の時から続く、すばらしいエネルギーです。

人は、生き生きとした幸せな存在であること、自分らしく生活することを願っているでしょう。人生の内側から湧いてくる元気を、どうやって見出すことができるのでしょうか。今朝の箇所では、主イエスの名による洗礼と、罪の赦しと、聖霊の賜物によって、その恵みを、人々が受け取ったと記されています。その思いが集まり、ひとつにされた群れの中に、不思議な力が湧いてきたと記されています。これは、今も私たちの教会の中に、起こっていることです。決してひとりでは、持ちえない勇気や目標を、兄弟姉妹と心を合わせて交わる中で、祈る中で、握ることができるのです。

幾多の困難を乗り越えて、神の平和を実現させる福音は、大胆に拡大してゆくのです。

教会の働きの中心

今朝の聖書が語ることは、祈ること、共に食事をする、交わる、それらが教会の働きの中心だということです。教会の年間計画で、つい特別ゲストの講演会が、持ち寄り愛餐会より、重要視されてしまいます。聖会で主講師の説教に間に合えば、歓迎オリエンテーションには遅刻しても良いと思ってしまいます。本当は生活綱領に、祈禱会は礼拝と同様の大切な働きの中心だと述べられているのに、あたかも参加自由のような空気があります。でも、大切に守るものを守る時、不思議な神様のわざは、必ず教会の中に起こってゆきます。

食を食べること、人に会うこと、外の空気を浴びること、自分の心を探ること。よく眠ること…。特別な治療に頼ったり、高級な食材を食べたりしなくても、あたりまえにできる事を、毎日続けられたら、私たちは、驚くほど元気に、気分が爽やかになります。自慢したくなるような特別な刺激より、仲間と一緒に続けるエクササイズが、実は一番大きな効果と変化を私たちにもたらします。見過ごされがちなことが、一番大事なのです。

「パンを裂き」と書かれている行為は、今の私たちの聖餐式の原型です。私が、洗礼を受けた偽らざるきっかけは、「聖餐式のパンとぶどう酒が飲みたかったから」でした。今はジュースですが、昭和の母教会は「赤玉ポートワイン」でした。今に至るまで、どれほど聖餐の恵みを受けてきたことでしょうか。不純な動機で救われた者を、主が憐れんで、今は、執行する者として用いてくださっていることに、ご計画の大きさを思わずにはられません。

礼拝の恵み、聖餐の恵み、祈りと交わり、どれも欠かすことのできない働きの中心です。

教会の創立80周年を祝うこのタイミングで、このスタートラインに、立ち返りましょう。私たちが生きる目的は、永遠に神をほめたたえること。その喜びに尽きるのですから。